

映像、音声、音楽……

生成AIで紡がれる3つの物語

『AZUSA』

ソウル国際 AI 映画祭 2025
最優秀アニメ賞受賞

generAldoscope

ジェネレイドスコープ

『グランマレビット』

ソウル国際 AI 映画祭 2025
入選

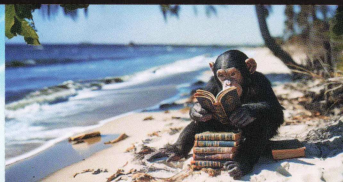
『モンキーズ・オデッセイ』 原作・監督・脚本：安達寛高

『AZUSA』 原作・監督：曾根 剛 脚本：曾雌康晴

『グランマレビット』 原作・監督：山口ヒロキ 脚本：安江 渡 制作協力：ガウマビクス

企画プロデュース・配給・宣伝：REALCOFFEE ENTERTAINMENT

© 2025 generAldoscope: HIROTAKE ADACHI, TAKESHI SONE, HIROKI YAMAGUCHI / REALCOFFEE ENTERTAINMENT



INTRODUCTION

3人の映像作家とともに、

“オリジナルの物語 × 全編生成 AI” という新しい試みに挑戦した企画。

オリジナルの物語を脚本にし、映像・音声・音楽といった主要素を

全編生成 AI で制作したオムニバス形式の映画。

原作・監督は各ジャンルで活躍する映像作家、安達寛高、曾根 剛、山口ヒロキ。

3

『モンキーズ・オデッセイ』 原作・監督：安達寛高



STORY

大航海時代、ある船乗りが猿たちの住む無人島に漂着する。猿たちは船乗りの積み荷の本に興味を抱き、読み始めた。驚異的な賢さで本の知識を吸収した猿たちは、やがて道具を作り、布の服を着るようになり、そして鉄器の製造に成功する。船乗りは無人島から脱出するために、猿たちを利用することにした。

PROFILE

安達寛高：1996年に小説家デビュー。多岐にわたるジャンルの小説を発表し映画化を重ねてきた。大学時代に自主映画を撮り始め、2020年1月公開の『シライサン』にて長編監督デビューを果たす。Netflixにてアニメ『EXCEPTION』『ぼくのデーモン』で脚本を務める。

『AZUSA』 原作・監督：曾根 剛

STORY

どうすれば夢で会った大切な人とまた巡りあえるのか？石塚梓は空想癖のある風変わりな女の子。ある日、カフェでデザイナーの女性と出会う楽しい夢を見る。しかし、夢の世界で出会ったデザイナーは現実世界では母で、すでに亡くなっていた。現実でもまた母と再会し、夢を叶えるために少女が2つの世界を行き来する。

PROFILE

曾根 剛：2023年よりAI映画を自主制作。同年、日本初のAIシンガーを生成して話題を集めた。AI短編『Sakura Nostalgia』が中国 AI Artist 2025 で名誉賞受賞。ほか『My Universe here』『ギフテッド』が各国の映画祭に招待。ベトナムで全編 ChatGPT の脚本を執筆し、全編音声・映像効果に生成 AI を使用した実写映画『寝る映画』(2023) を監督、ロシア国際手話映画祭(沈黙の世界)で最優秀長編映画を受賞。モナコ国際映画祭で視覚効果賞ほか4部門受賞。今作の一編である『AZUSA』は、モナコ国際 AI 映画祭 2025 にて最優秀アニメ賞受賞。



『グランマレビット』 原作・監督：山口ヒロキ



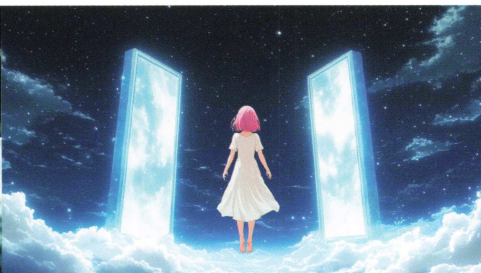
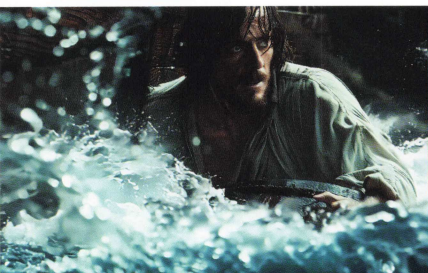
STORY

遠い未来の架空の島国。「自壊機械」と呼ばれる自動進化ロボットたちと、その暴走を制圧する超能力者たちが織り成す物語。主人公・老女レビットの葛藤と決断が街の未来を変えていく。進化を続ける機械と、理想を求める人間が共存する街で、レビットの選択はどこに辿り着くのか。

PROFILE

山口ヒロキ：2004年、自身初の長編映画『グシャノピンズメ』がモントリオール・ファンタジア国際映画祭でグランドブルーカード賞を受賞。代表作は『メサイア』シリーズ、『血まみれスケバンチェーンソー』シリーズ、『トリノコシティ』など。2024年、AI映画『IMPROVEMENT CYCLE - 好転周期 -』がブチオン国際ファンタスティック映画祭を始めとした海外のAI映画祭に多数入選・受賞。現在は映画監督の他に、生成 AI に関するアドバイザーとしても国内外で活動している。今作の一編である『グランマレビット』は、ソウル国際 AI 映画祭 2025 にて入選。

2025年 / 日本映画 / 約64分 / 16:9 / ステレオ / 音声英語・日本語字幕



UPLINK 吉祥寺 2025.8.29 Fri

【毎回ゲストトークあり】詳しくは...

X: @realcoffeeinc

<https://www.rce-inc.net/>

